

第2回環境審議会廃棄物専門委員会への意見について

下諏訪町住民環境課長 岩波美雪

○資料2 資源循環に関する取組（4R）の表現方法について

前回の委員の皆さんの発言を踏まえての「3R+リプレイス」への変更という主旨は理解しますが、第5期計画において、冒頭の知事の言葉、計画の重点方針の第1点及び第4章のタイトルとして「4R等の推進」を掲げていることから、県内の自治体においては廃棄物処理計画や方針等において「4R」を掲げて事業推進しているところが、少なからずあるのではないかと思います。

「4R」という表現は第5期計画において力を入れた部分であり、全国的にも先進的な取り組みではなかったかと思います。本当に「4R」が浸透していないのか、「4R」を使用して資源循環政策の推進を行っている自治体数の調査をするなど、もう少し実態を検証したうえで、変更した方が良いのではないかと思います。

少しでも浸透しているなら、「4R」の補足として「(3R+リプレイス)」という表現を取り入れたらどうでしょうか。

既に3Rが浸透しているからこそ4Rへ進み、4Rが進んでいく中で、さらにはその後の5Rへと続いていく考えもあるのではないかと思います。

(参考) 全国で5Rを推進している自治体の取り組みもあります

・リフューズ（ごみになるものを断る）

環境負荷をできる限り低減させるためには、最優先でその限界まで、長寿命製品の開発や簡易包装の選択などによって排出抑制に取り組む

・リペア（修理して使い続ける）

再使用と再生利用は、社会内に物質循環を構築することで、廃棄物の削減と同時に自然からの資源採取を低減する効果がある

○資料5 食品ロス削減の推進について

3ページの事業者の取組に、食品廃棄物は飼料化・肥料化に利用されていますが、ゼロカーボンの取り組みにつながるバイオガス発電の燃料にしていくことで再生可能エネルギーの普及拡大につながると考えられます。県内においても企業による食品加工残渣等を使用したプロジェクトが進められていますが、初期投資の高さや廃棄物の収集・運搬コストが課題となっています。

4ページには市町村の取組が記載されていますが、市町村単独では食品残渣の効率的な収集が難しいことから、広域での取り組みが効果の高い方法でもあるため、県におきましては、県内の現状を把握していただきながら、今後の展開によっては協力支援をしていただきたいと思います。